



第36号

2018年3月1日

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会
……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785
あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559
あんず居宅介護事業所 ☎047-701-5558
ケアステーションゆず ☎047-701-5506
看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331
幸樹会本部 ☎047-710-7550
〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



絵・井上 忠司 いづつす くにとし 愛知県生れ。文化学院デザイン科卒業後、グラフィックデザインの世界へ。食品関係・洗剤関係の仕事を経てパッケージのアートディレクター（AD）になる。リタイア後に趣味で始めたバードウォッチングにはまり、10年間鳥の絵を描いてきました。さんしょうのご利用者です。

介護予防・総合事業を4月から開始します！



生活支援サービス・困りごとサービス

「ケアステーションゆず」が運営

利用できる人は要支援1・2と「事業対象者」です

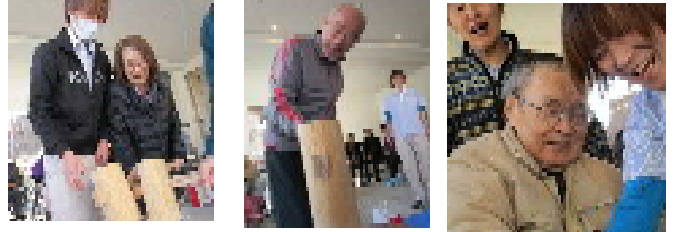
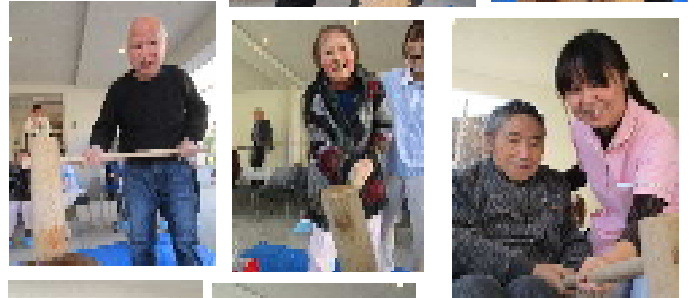
度外の家事支援・付き添い等のサービスで、利用料は1時間800円です。同額が従事者に支払われます。

ケアステーションゆずが、松戸市介護予防・日常生活支援総合事業の生活支援・困りごとサービス事業者に選定され、4月に開始する準備を進めています。生活支援は介護保険制度の範囲内のサービスで、1割負担の場合30分未満100円、30分～1時間未満は200円の利用者負担です。困りごとサービスは介護保険制

従事者(有償ボランティア)を大募集！

この事業は、住民の皆さんの自発的参加による支え合い体制づくりもめざしています。従事者は松戸市の訪問型支援サービス研修(直近は3月19日)を修了していただく必要があります。(詳しくは別紙案内を)

餅つきと出前コント みんな楽しみました



→コントのげき隊の
皆さんによる消費者
詐欺防止コント



←「私はだまされな
い」と、皆さん真剣

第13回地域交流カフェが、2月20日に行われ、餅つき大会と、出前劇団「コント de げき隊」のオレオレ詐欺防止コントなどを楽しみました。

餅つき大会は、数日前から「餅つきを楽しみにしているよ」とのお声を頂いておりました。当日は、利用者の皆さんに参加していただき、まさに昔取った杵柄、すばらしい杵使いを披露していただきました。餅つきの最中に、さんしょうの前を通りがかった住民の皆さんも見学され、「今どき餅つき大会とは珍しいわ」と話して、楽しそうに見学されていました。

餅つき後は、餅尽くしの昼食をご用意させていただきました。お雑煮に、きな粉餅に、からみ餅、芋餅、協力者からのお汁粉、そして釣り師が釣ってきたヤリイカと里芋の煮物も召し上がっていただきました。雑煮は、こだわって薄味と肉多めの2種類をご用意したところ、好評をいただきました。

昼食後は出前劇団「コント de げき隊」の皆様が、振り込め詐欺などの犯罪の防犯対策がわかる劇を上演し、会場を盛り上げて下さいました。昨年の松戸市の被害額が約3億円で千葉県内の市町村で最大、ワースト1で、県合計で約23億円余、しかも被害届がでているものなので氷山の一角と聞いてみんなびっくり。大変わかり易く、為になる面白い劇を真剣に鑑賞しました。

(加藤義幸)

自作の補助具を活用して

綾部信也さん(73歳)は、あんず訪問看護・あんず居宅介護支援・ケアステーションゆずのご利用者です。現在は車椅子で一人暮らしをされていますが、お部屋の随所に工夫がされていて、いつも「すごいなあ」と感嘆します。……………(中野三代子)

例えば、スライディングボードでベッドから車椅子に一人で移乗する際に便利のように、ベッドサイドレールにクッションをつけて足を上げやすくしたり、筋力を落とさないためにチューブを使って腕を鍛えたり、先に釘を取り付けた自作の長い棒で鍵を開け閉めしたり、マジックハンドで床のものを取ったり…。自分でベランダに洗濯物も干します。



綾部さん

すごい工夫をどのようにして思いつくのかお聞きすると、「仕事の延長線だから、たいしたことないよ」と笑います。



鍵の開閉

「倉庫管理の仕事をしていたことがあり、物を取り出しやすいよう整理する。置きやすいよう工夫することが当たり前だった」そうです。



マジックハンド

お部屋に釣りをしている綾部さんの写真が飾ってあります。私も釣りをするので訪問した時に、釣りの話になることもしばしば。「釣りは友達に誘われてヘラブナ釣りに行ったのがきっかけで、日本ヘラブナ研究会に入り、毎週色々な大会に出て他の時間がなくなってしまうほどだった。友達と伊豆の下田に海釣りに行ったことがきっかけで、メジナの磯釣りをやるようになった。尾長メジナや口太メジナを狙うんだが、メジナは下にもぐる引きが強く、魚とのやりとりが面白い」といいます。

私は船釣りをしますが、磯釣りは難しそうですねと聞くと、「磯釣りにそんなにこだわりはないけれど、人からの情報と磯についたら潮の流れを読んで場所を決めて釣り始めるので、魚がいるかわからない場所で釣るのがワクワクする瞬間だね。船釣りは船頭さん

次第という面もあるからね」「釣りが終わって風呂に入って食事のときに、船釣りの人とビールを飲みながらお互いの磯釣り、船釣りの面白さやこだわり話をしてる時が一番楽しかったね」

そうですね、釣りの後のお風呂とビールは最高ですよ！



写真は尾長メジナ 60 cm、15年前八丈島で▲

節分・豆まき (2月4日)

“鬼は外！”
今年は、日曜日だったので、利用者の皆さん少なめで、ちょっと残念でした。



シリーズ・『いまと昔の物語』から見た 河原塚の風景いろいろ…⑥

旗本新見家のその後

河原塚史編纂事業では、江戸時代、河原塚の領主が旗本・新見家だったと分かったことも大きな発見です。

編纂委員会では、せっかく領主の人物特定までできたのだから、その子孫はいまも健在なのか、健在ならどこでなにをして暮らしているのかということにも関心を持ち、追求しました。明治43年12月に12代目が長部村(干潟町→旭市)で亡くなり、絶えるところまでの足取りが詳細に分かりました。

調査が成功したポイントは、『我孫子市史』にたどり着いたことです。それはまさに感の世界です。

江戸時代に幕府がまとめた『寛政重修諸家譜』では、新見家3代目が下総国柴崎村の園福寺に眠っていると記録しています。インターネットで調べると、柴崎村はいまの我孫子市柴崎で、ここには園福寺があり、新見家の菩提寺で、江戸時代は筆頭名主が新見家に援助していたと書いています。そこまで書くということは、教育委員会や博物館が調べたものがあるからだろうと判断し、我孫子市教育委員会に問い合わせると、『我孫子市史』に記載があると紹介されました。さらに、それを手掛かりに、旭市の大原幽学記念館にも新見家12代目の略年表があることがわかり、詳しい足取りが分かった次第です。

(河原塚史編纂委員会幹事・内中偉雄)



デンマーク便り

ラスムッセン 京子

謝肉祭 (Fasterlavn) の後、学校は直ぐ1週間の冬休みです。平らな国のデンマークではなかなかスキーの醍醐味を味わえないので、多くのデンマーク人がノルウェーの山へとスキーに行きます。スキーに行つてノルウェー人のいう“デンマーク病”(スキーに来て骨折してしまう事)にかかります。

近況ですが、この頃の病院は休暇中に患った骨折や捻挫で賑わっています。

さて、3月というと復活祭を控えて子供たちは「当てっこ手紙 (Gækkebrev)」の制作に取り掛かります。雪の下から春を感じて花つぼみを持ち



当てっこ手紙

上げてくるウィンタードロップと言われる花があります。この花の名前がデンマーク語で Vintergæk です。(Vinter 冬, gække 迷わすという語源です)

この手紙は、復活祭の時に子供たちが親戚の大人から卵型のチョコレートが貰えるか、又はそれをあげる羽目になるかというスリルあるものです。大体優しい祖父母や叔父さん叔母さんが対象になります。封筒の中にはウィンタードロップの花と透かし切り絵にした便箋に謎解きのヒントが書いてあります(可成り難しいヒントです)。「さて私は誰でしょう?」という問いかけに3回のチャンスで相手が誰か当ててなければなりません。つまりは返事の手紙を書くのです。

“えっ、手当たり次第に返事を書いてみる? チョコレートより高くつくかもしれませんね”。



ウィンタードロップの花

大体優しい祖父母は当てないで、チョコレートをしっかり準備してくれます。でも、結構若いおじさんなどズバリと当てて、送り主である子供にちやっかりチョコレートのプレゼントをさせるケースもあります。

大体優しい祖父母は当てないで、チョコレートをしっかり準備してくれます。でも、結構若いおじさんなどズバリと当てて、送り主である子供にちやっかりチョコレートのプレゼントをさせるケースもあります。

第9回さんしょう運営推進会議報告

総合事業に期待の声

2月20日、第9回さんしょう運営会議を開催しました。東部包括・広瀬さん、三和病院・石橋さん、利用者代表・井上さん、住民代表・鈴木さん、見学に来られた研修医・堀川先生、幸樹会から岡本、南雲、武

井、中野が参加し、9名で開かれました。

運営状況報告で、1月は利用者25名(定員29名)、2月は27名、1月の平均要介護度は全国平均より低い2.40になっていますが、医療必要度・重介護が必要な利用者も多くなることが見込まれるので平均介護度も上がっていく見込みであることが報告されました。様々な利用者に対応出来るよう、職員が研修や勉強会に参加していること、地域に根付いた取り組みをしていることなどを報告させていただきました。

会議の最後には、理事長の中野から4月開始予定の新しい事業である介護予防・総合事業の日常生活支援サービス、困りごとサービス、通いの場『あつまーれ幸樹』の紹介があり、会議の参加者さんから「それは朗報です」「こういうサービスを待っていました」や、「是非、使いたい!」との声を頂きました。まだ準備段階で、従事者(有償ボランティア)などの確保も課題です。興味のある方、何か人の役に立ちたいと思っている方、是非ご応募ください。お待ちしております。

今後も地域に根付いた温かく、細やかな支援が出来る頼れる身近な“幸樹会”を目指しています。なお、会議後は、地域交流カフェにて餅つきの体験、つきたてのお餅を堪能していただきました。ご参加ありがとうございました。(南雲朋子)

八柱学習会(定期勉強会)

●前回報告2月16日(金)。助言者 武井幸穂氏

テーマ: 瀬戸内寂聴『いのちよみがえるとき』DVD

参加者10人。「寂聴さんの素顔の言動は、まわりを元気にする」

▼次回学習会予定(定例日: 毎月第3金曜日)

八柱学習会・特別講座

「上手に老いる」その2

—自己点検ノートを使って—

講師: 石黒 秀喜氏



(元厚生労働省老健局介護保険指導室長)

●3月16日(金)、18:30~、参加自由

場所: 幸樹会館2階会議室

幸樹会職員募集中

非営利・働きがいのある職場です

薬剤師・看護師・ケアマネジャー・介護職員

問い合わせ: 本部中野まで、☎047-701-7550

今月の屋上太陽光発電量は、

969KW



幸樹会館電力使用量 7316KW 自給率 13.2%